

みなみあそ ダイアリー

令和8年度 第31回阿蘇郡 消防操法大会の結果



令和8年度第31回阿蘇郡消防操法大会が、7月26日に産山村大蘇ダム特設会場で実施され、阿蘇郡内の町村代表が消防操法を競いました。本村からは、第13分団（喜多・栃木）と、第2分団（白川）が出場し、日頃の訓練の成果を発揮されました。結果は、小型ポンプ



第2分団の皆さん

操法にて、第2分団が準優勝を収めました。

第2分団分団長の後藤辰徳さんは、「火災が起きた場合を想定して訓練に取り組みました。もしもの時に、この訓練の成果を活かせるよう備えたいです」と話されました。

郡大会結果は次のとおりです。

小型ポンプ操法

優勝	産山村消防団
準優勝	南阿蘇村消防団第2分団
3位	高森町消防団第8分団

ポンプ車操法

優勝	小国町消防団
----	--------



第13分団の皆さん

グローバルネイチャー ポジティブサミット2026で 村の紹介を行いました



自然の損失を止めて回復へと転じる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現を目指すことを目的とした、世界規模の国際会議「グローバルネイチャーポジティブサミット」が、熊本市で開催されました。村が5月に県内初の宣言自治体となったことを受け、太田村長がイベントで発表を行っています。

村長は、南阿蘇村の雄大な自然や湧水、草原を守る活動、農業の取り組みなど、これから目指す「南阿蘇村モデル」への思いや取り組みを紹介。閉幕時には、2030年までの自然損失の防止と回復に向けた8つの提言を盛り込んだ「熊本宣言」が発表されました。村は引き続き、「自然と共生する村」の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めてまいります。



(写真上) 会場入りした太田村長 (下) 講話を行う太田村長 (写真奥)

新上五島町と 合同キャンプ



姉妹町村連携をしている長崎県新上五島町と本村の子ども会の合同キャンプが、2泊3日で開催されました。この合同キャンプは、隔年ごとにお互いの町村を訪問し交流しているもので、今回は新上五島町で行われました。

村からは、村内小学校の4、6年生総勢57人が参加し、新上五島町の小学生16人と海水浴やシーカヤック、サップといった海ならではの体験活動を通じて交流を深めました。夜は、みんなでバーベキューや花火を楽しみ、僅かな時間ではありましたが、お互いの親睦を深めることができました。



サップを体験した子どもたち

白川区夏祭り 子どもこしが登場



協力して担がれた子どもこし

白川区で、夏祭りが開催されました。これは100年以上続く地区の夏祭り、白川水源を中心に担ぎ手がみこしを担いで地区内を練り歩き、区の発展と交流を目的に実施されています。今年、初めて子どもこしが登場し、地区内外から子どもたち約30人が参加。全員がお揃いの法被を着て、「わっしょい」と元気に掛け声をあげてみこしを担ぎました。子どもたちは、「初めて担いでみて、楽しかった」「また友達と一緒に担ぎたい」などと充実した表情で話していました。



力強く担がれた大人みこし

■宝くじ助成事業で大人みこしを整備
また、地域社会の健全な発展と社会福祉の向上に寄与することを目的としたコミュニティ助成事業を活用した宝くじ助成金によって、白川区に大人みこしが整備されました。
このコミュニティ助成事業は、(一財)自治総合センターが、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源に実施しているもので、今後の白川区のますますの活性化が期待されます。夏祭り当日が初お披露目となり、子どもこしとともに地区内を盛り上げました。
今後、本事業を通じて、伝統文化の継承を図るとともに、地域交流のさらなる促進に取り組まれます。

県青少年大使に就任



村在住の松尾咲慧さん(熊本学園大学付属中学校1年)が、県青少年大使に任命され、活動報告のため、太田村長を表敬訪問しました。

県青少年大使は、子どもたちの夢や国際感覚を育むことを目的とした、県の「グローバルジュニアアドリーム事業」の取り組みの一つ。8月に県内の小中高生30人が4泊5日の日程で台湾を訪れ、現地での交流や文化体験を通して学びを深めました。

松尾さんは、「将来の夢は、食品関係の仕事に就くことです。世界にはおいしいものがたくさんあることを知ったとともに、台湾の友達に熊本のあか牛や馬肉のおいしさや魅力を伝えることができた研修でした」と話されました。今回の経験を今後の学校生活や将来に生かし、広い視野と国際感覚を持つ活躍されることが期待されます。

手作りの新聞を見せながら、
村長に活動報告を行った松尾さん(写真右)

長野阿蘇神社 神楽殿にて 「奉納コンサート」開催



長野阿蘇神社神楽殿で、ヴァイオリニストの古澤巖さんによる、熊本地震から10年に捧げる奉納コンサートが開催されました。

古澤さんは、日本を代表するヴァイオリニストの一人として知られ、国内外の演奏活動をはじめ、大河ドラマやバラエティ番組への出演など幅広く活躍されています。平成28年の熊本地震後から幾度となく村を訪れ、美しいヴァイオリンの音色で復興に寄り添ってこられました。当日は村内外から合わせて約50人の観客が集まり、古澤さんの演奏に魅了されていました。

古澤さんは「他にはない村の魅力に、いつも感謝しています。再び令和8年熊本地震が起きてしまい言葉がありませんが、熊本の未来を信じ、これからも応援しています」と語られました。

協力金の一部と会場での募金は、主催者を通して県の義援金に寄付されています。



奉納演奏で会場を魅了する古澤巖さん